

ペット共生住宅開発の背景

1. ペット共生社会への移行

- 少子高齢化による家族数の減少

- 管理・競争社会から受けるストレス

⇒「家族の一員」としての位置づけ

- 「動管法」の見直し⇒「動物愛護法」(略称)へ

2. ロングライフ住宅

- 家族構成・ライフスタイルの変化に対応した
ペット共生の住まいの必要性

住宅メーカーとしてのペットの捉え方

住宅の方向性：長期耐用化（ロングライフ住宅）

- 機能的な面での耐久性必要

》長期にわたり家族構成、ライフステージ、ライフスタイルの変化に対応できること

少子・高齢化社会の
進展

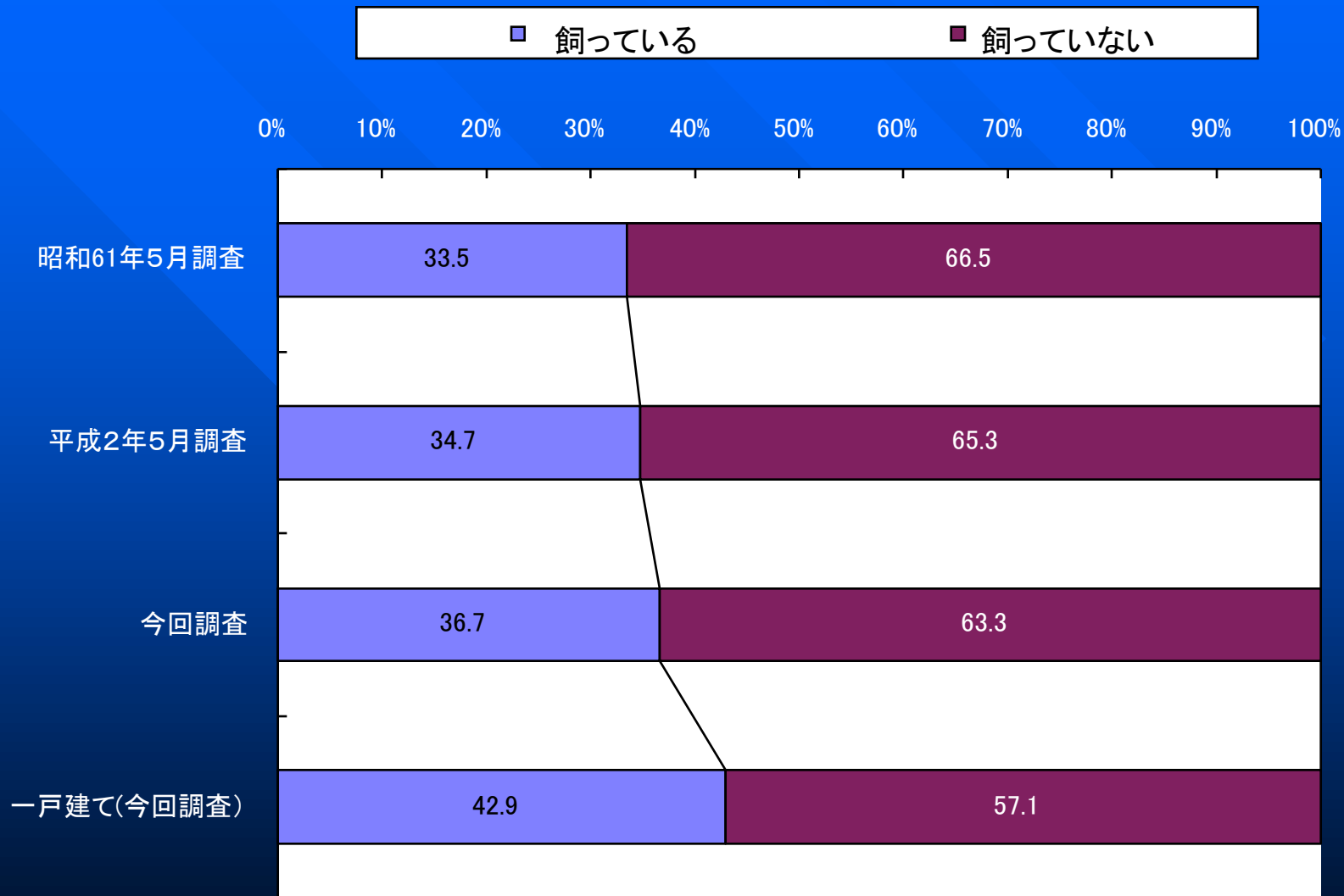
ストレス社会

自然・やすらぎへの欲求

家族の一員としての

ペットとの共生を配慮した住まいの必要性

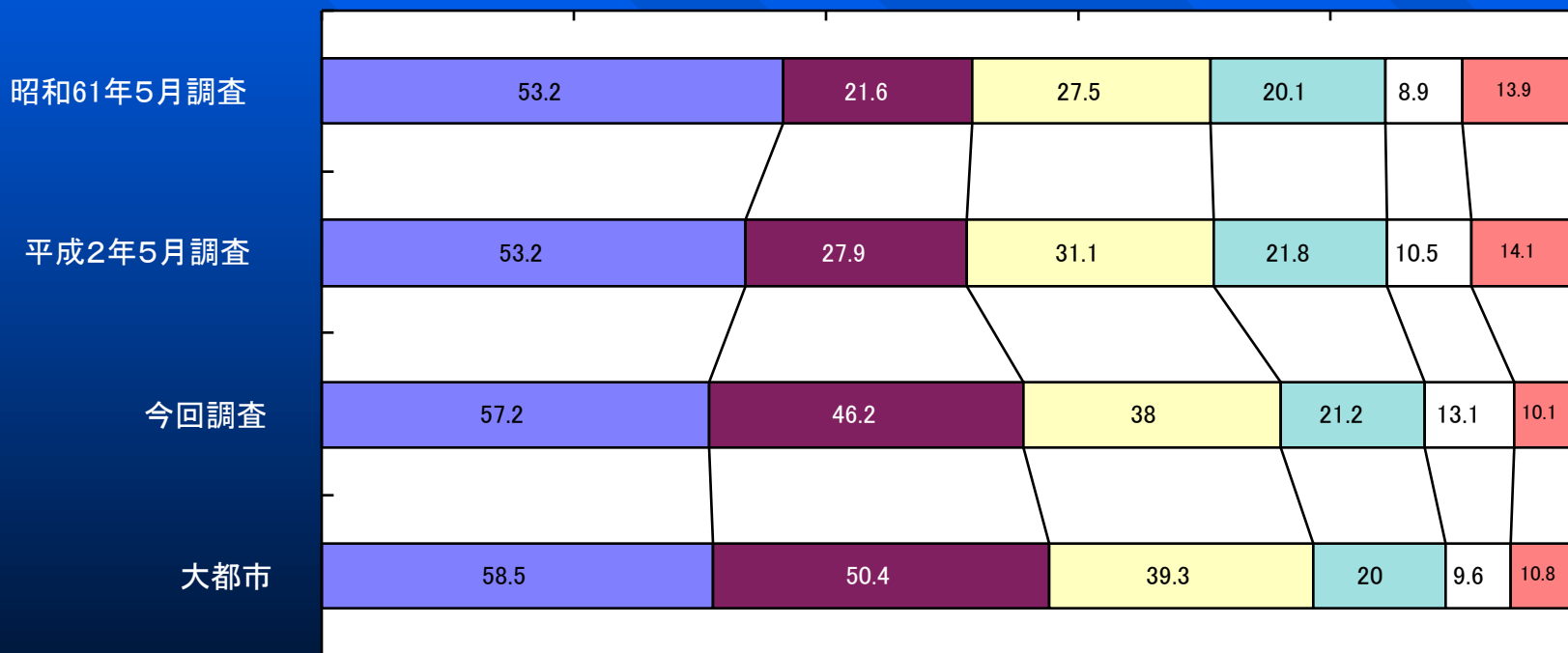
ペット飼育の有無



ペット飼育の理由

- 家族が動物好きだから
- 気持ちがやわらぐ(まぎれる)から
- 自分が動物好きだから
- 子どもの情操教育のため
- 捨てるのがかわいそうだから
- 役に立つから

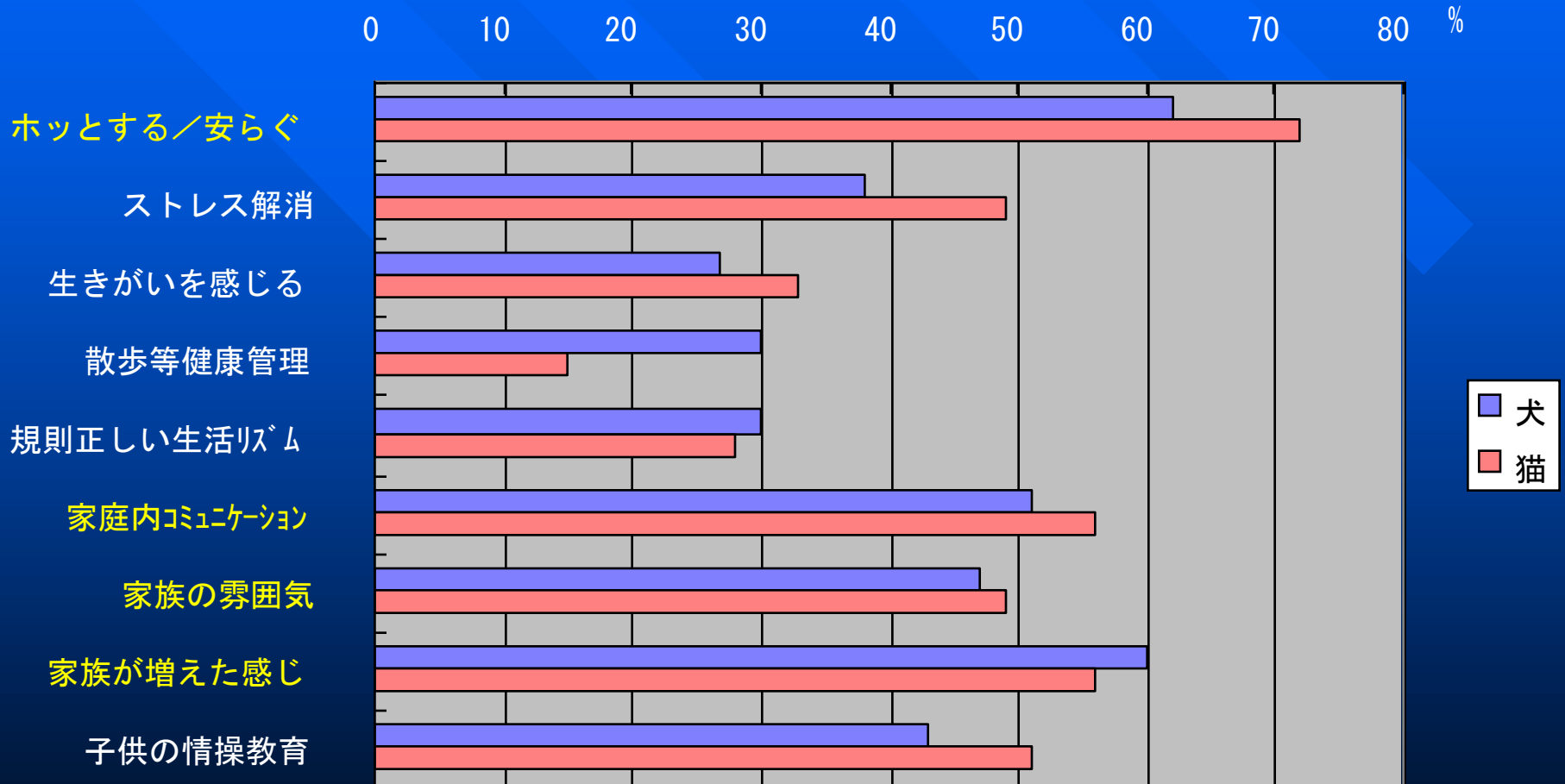
0% 20% 40% 60% 80% 100%



ペットの効用

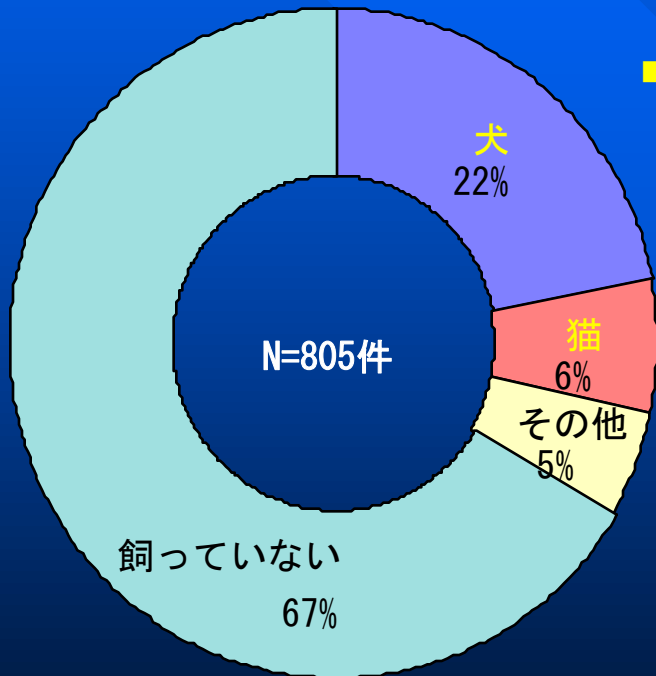
ペットの効用

(「かなりそう思う」の回答)



ペットオーナー

ペット所有率



■ペットオーナー

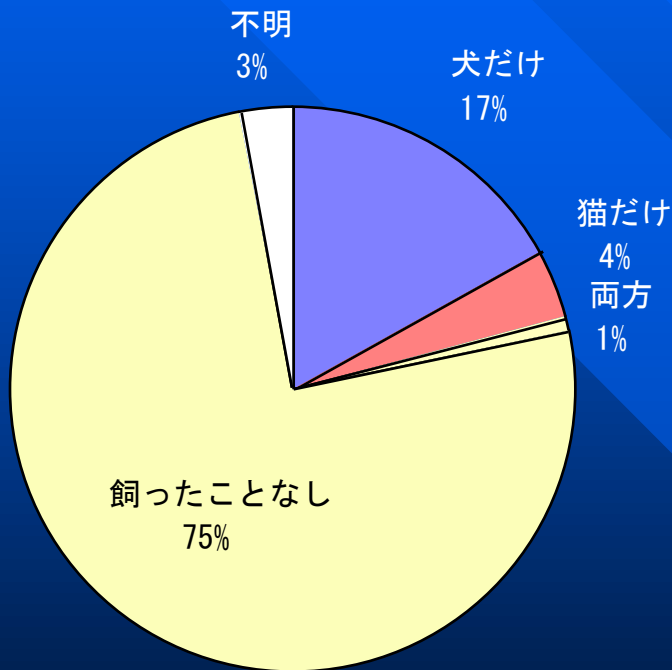
< 年数 : 餌代 : 病院代 >
犬 12年 : 4929円/月 : 36105円/年
猫 17年 : 3971円/月 : 31212円/年

<飼っている場所>

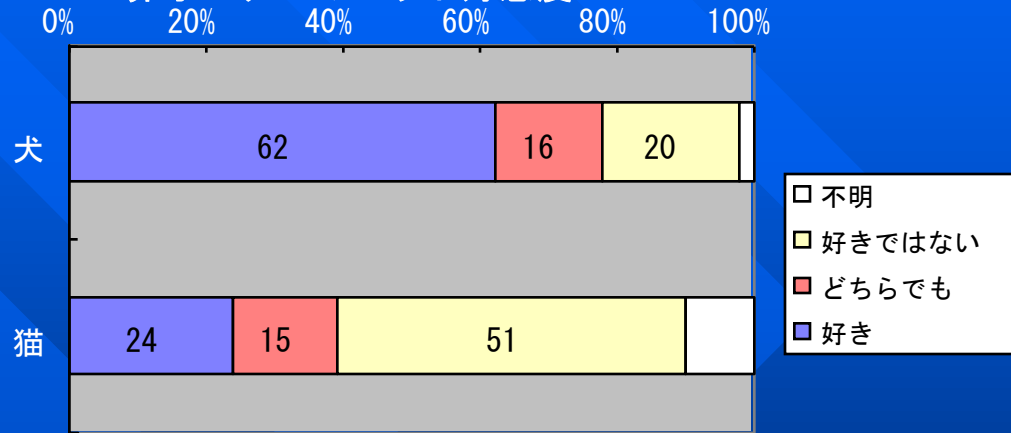
犬 室内45%、外のみ30%、両方18%
猫 放し飼い23%

非ペットオーナー

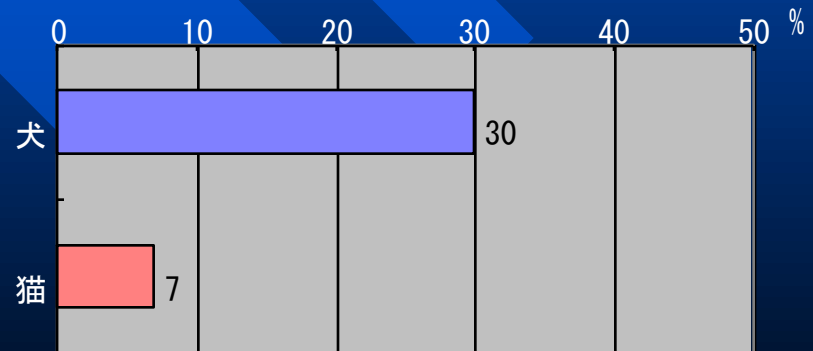
非オーナーのペット飼育経験



非オーナーのペット好意度



非オーナーの将来の飼育意向



ペットに関する意見評価

	非オーナー	犬オーナー
■ 住ハードへの要望		
近隣に迷惑をかけない家づくりが必要	83%	67%
ペットの住みやすい家づくりが必要	60%	61%
■ リレーション（個人・家族）		
ペットは家族の一員という意識強まる	68%	88%
ペットには人を癒す力がある	67%	86%
ペットと人との関係はますます重要になる	47%	74%
ペットを飼う人が多い社会になる	52%	59%
ペットには人格があり、愛玩物にしてはならない	61%	75%
■ システム（ルール、ソフト）		
ペットを飼うルールづくりが必要	84%	66%
医療制度が遅れている（保険など）	59%	76%
ペットのことを考えた施設づくりなどが必要	47%	64%

「動物愛護法」

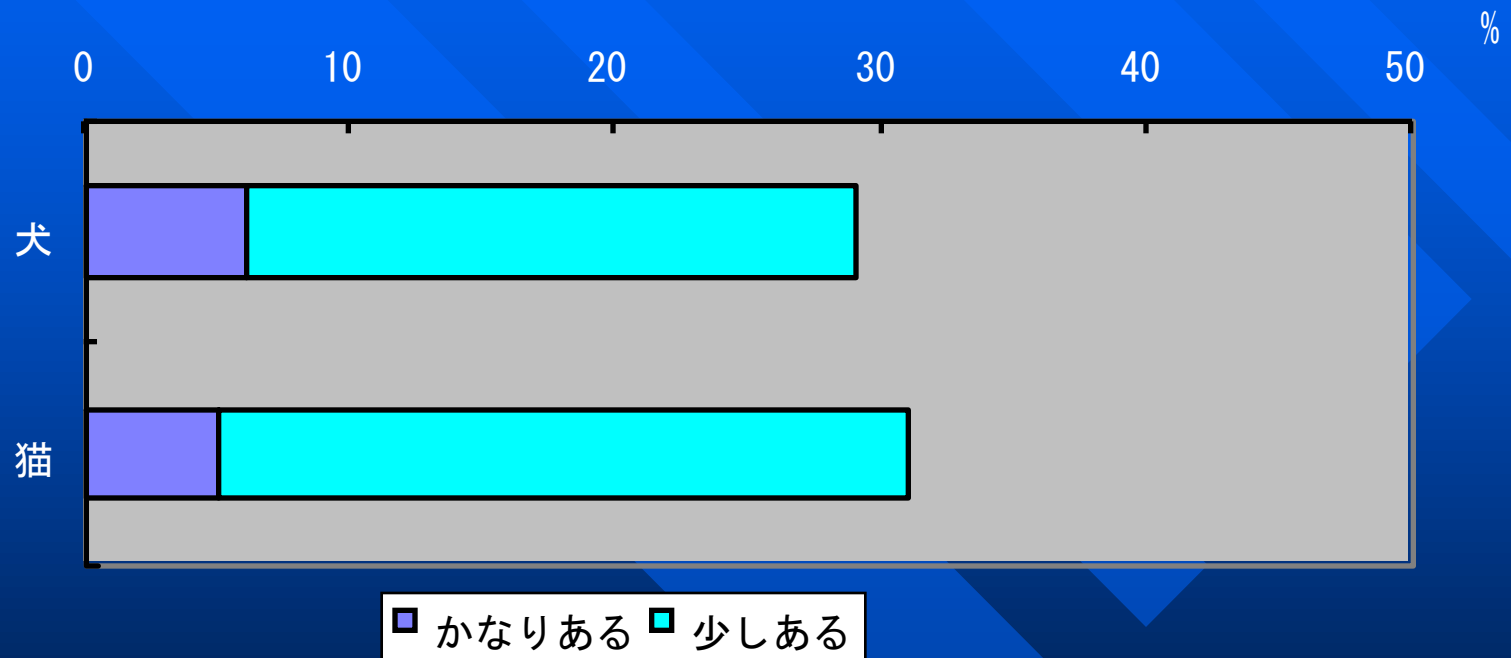
■正式名称「動物の愛護及び管理に関する法律」

—H11年12月に旧「動管法」を改正

■改正のポイント

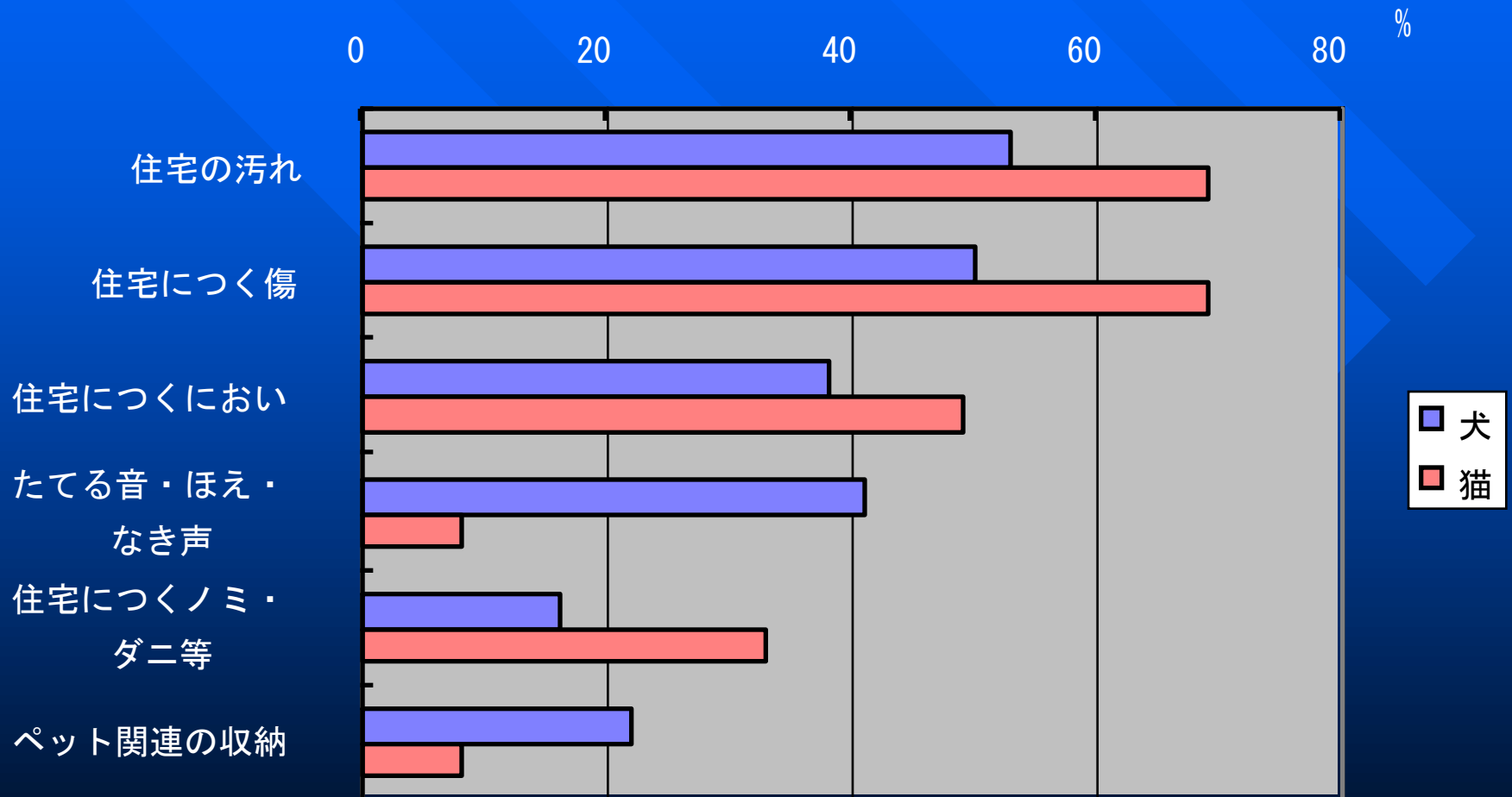
- 動物の命の尊重と人と動物の共生への配慮
- 積極的な動物行政への転換
- 飼い主の責任強化
- ペットショップ等に対する規制

ペットを飼う上での住宅の不满

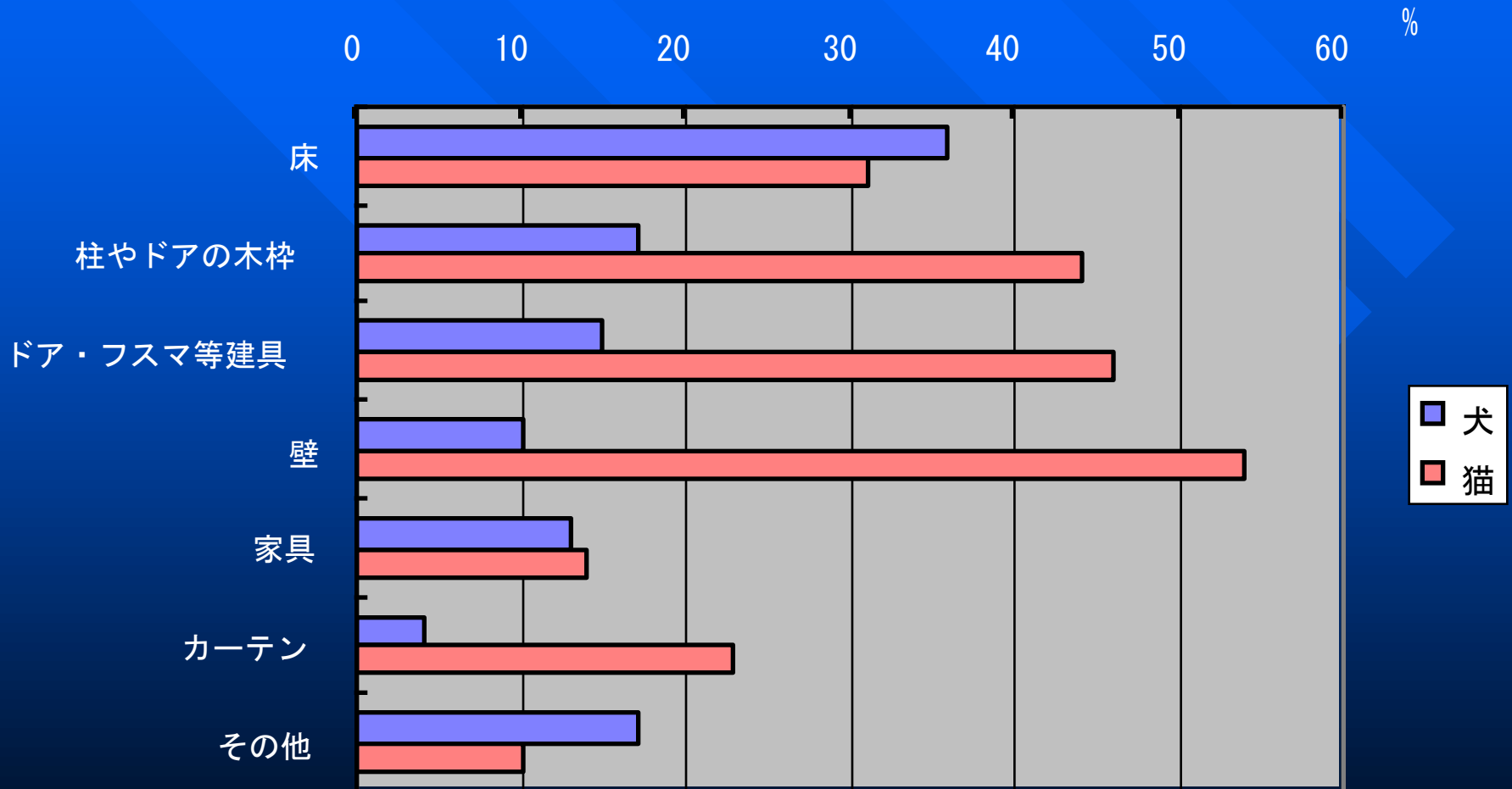


ペットを住宅で飼う問題点

ペットから「住宅に受ける」問題点

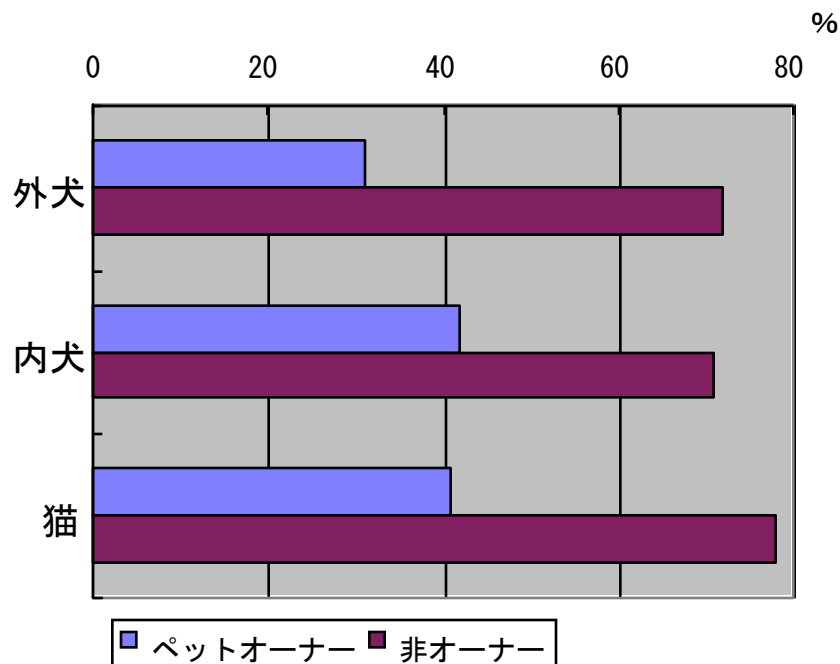


ペットによって傷つく部位



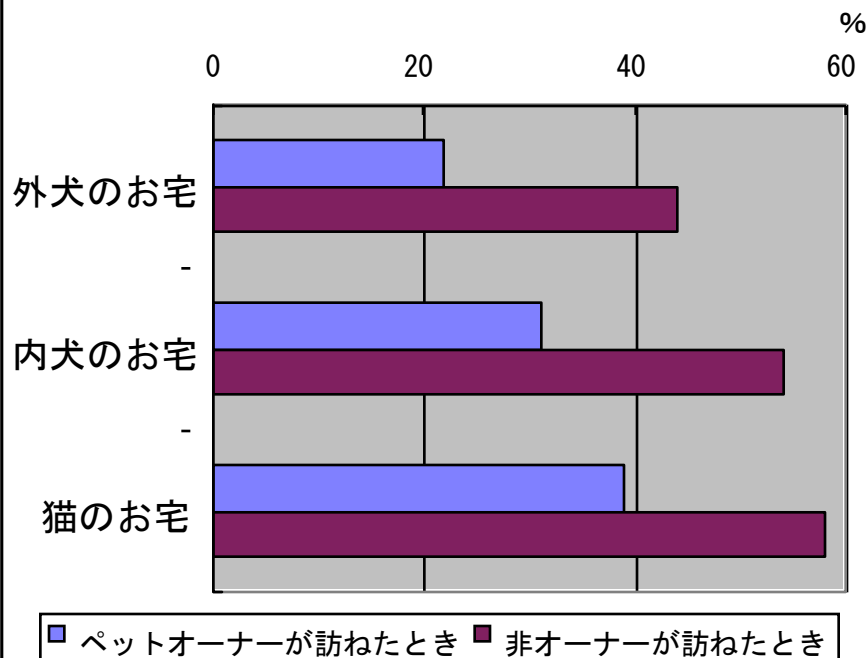
ペットオーナー宅を 訪問したときに感じること

なにかいやなこと、迷惑なことが
あった経験がある

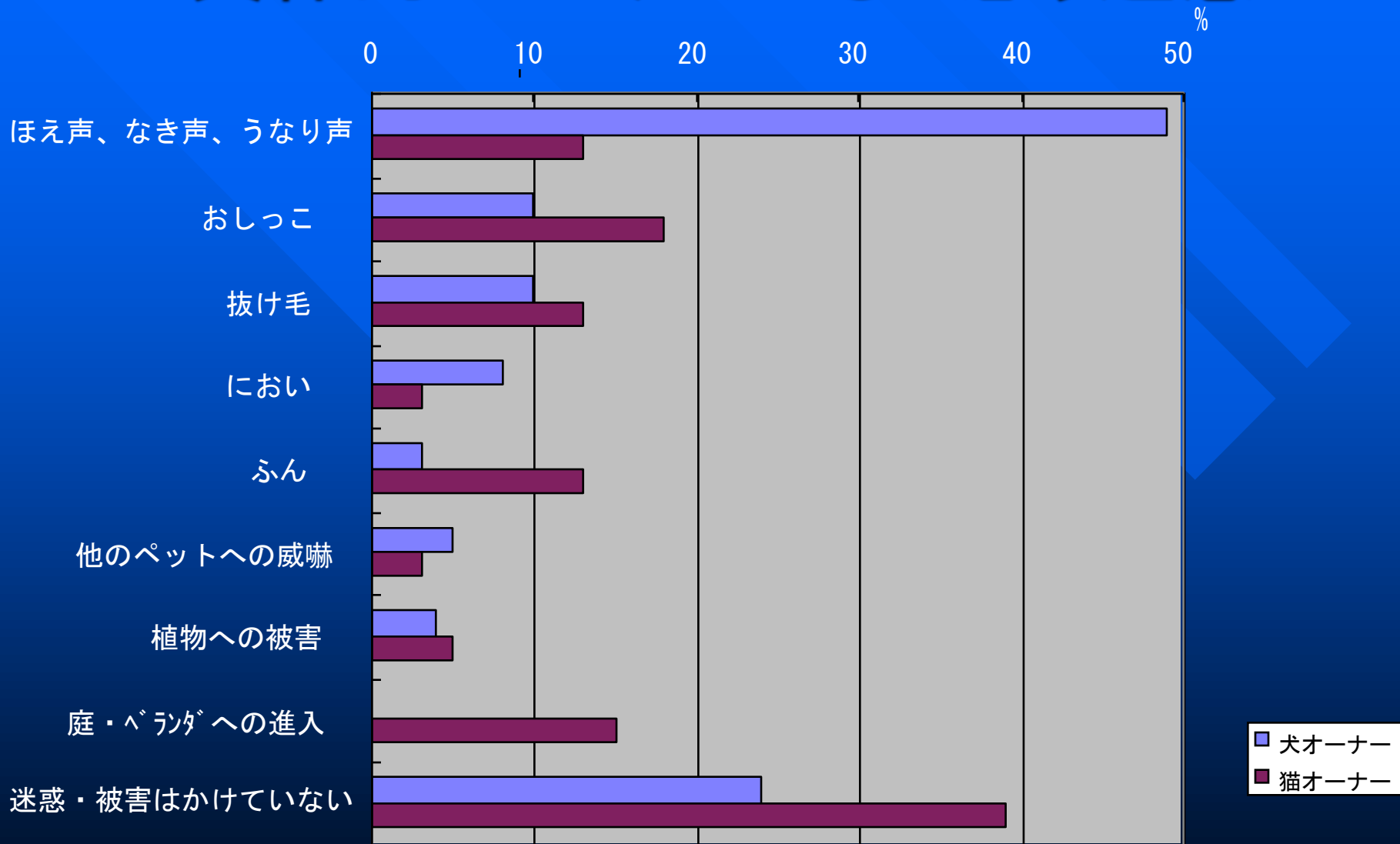


ペットを飼っている家の第一印象

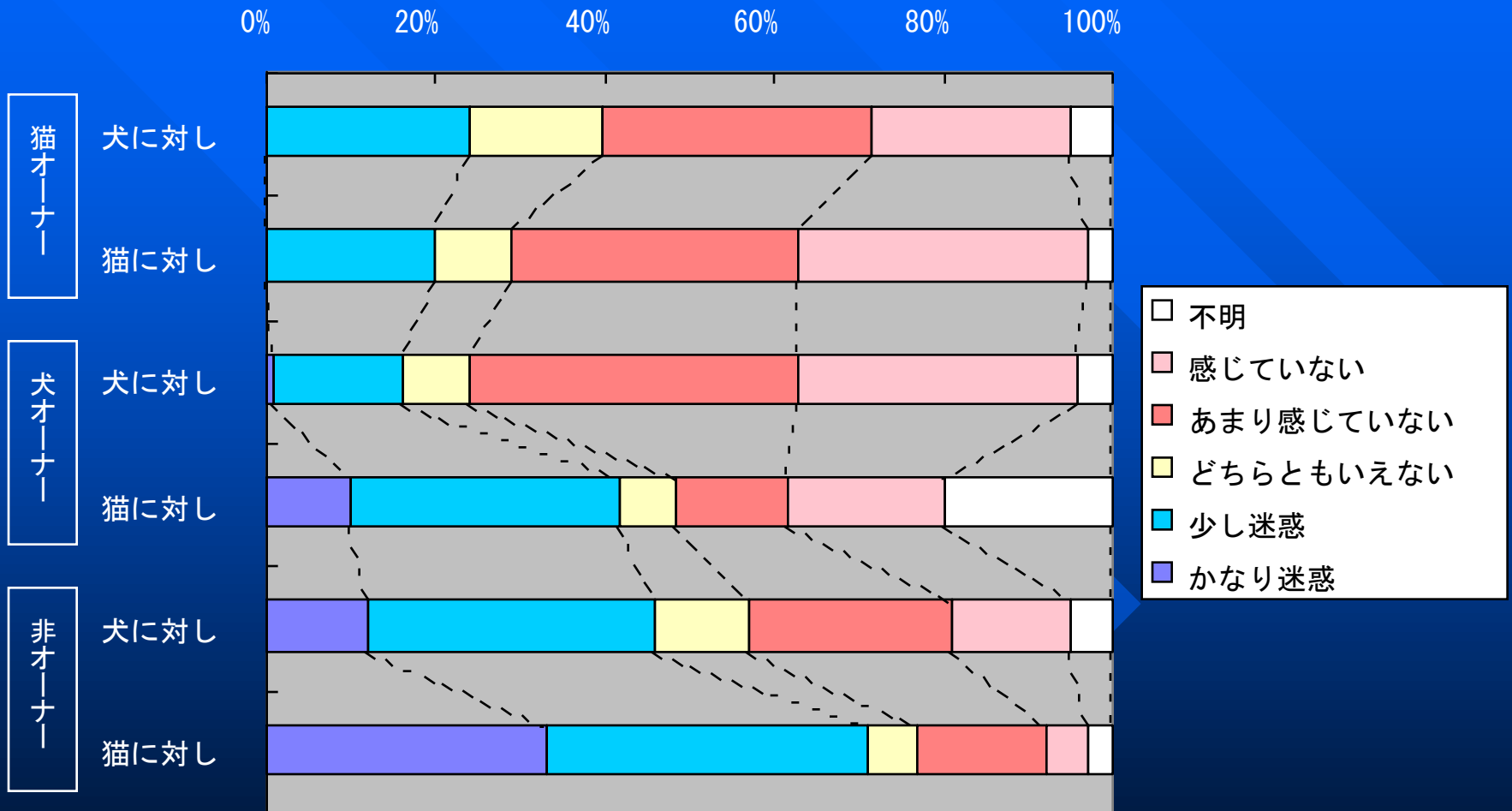
ペットによる汚れ、傷、雑然とした感じをもった比率



具体的にかけていると思う迷惑

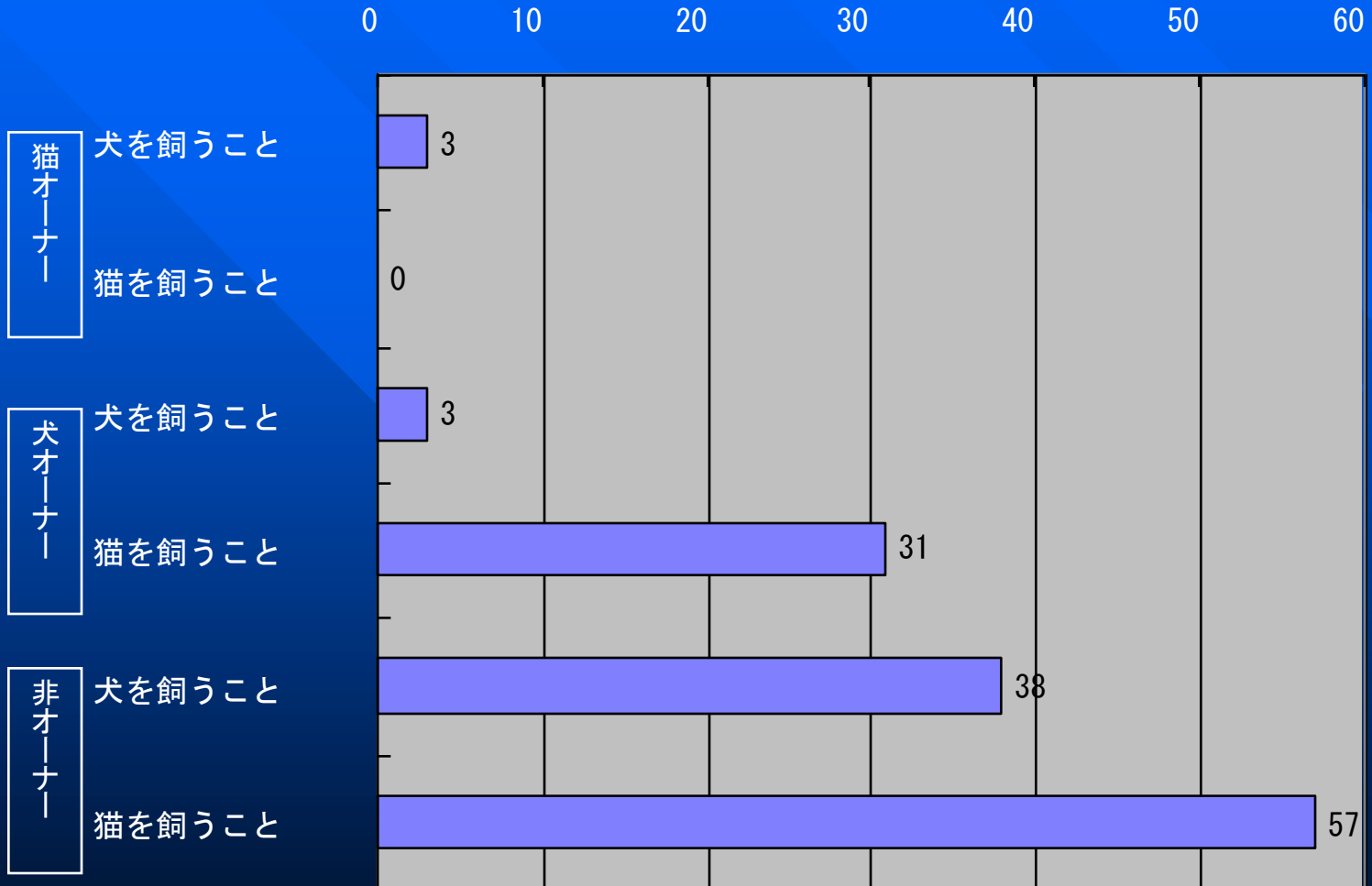


近所のペットからの迷惑

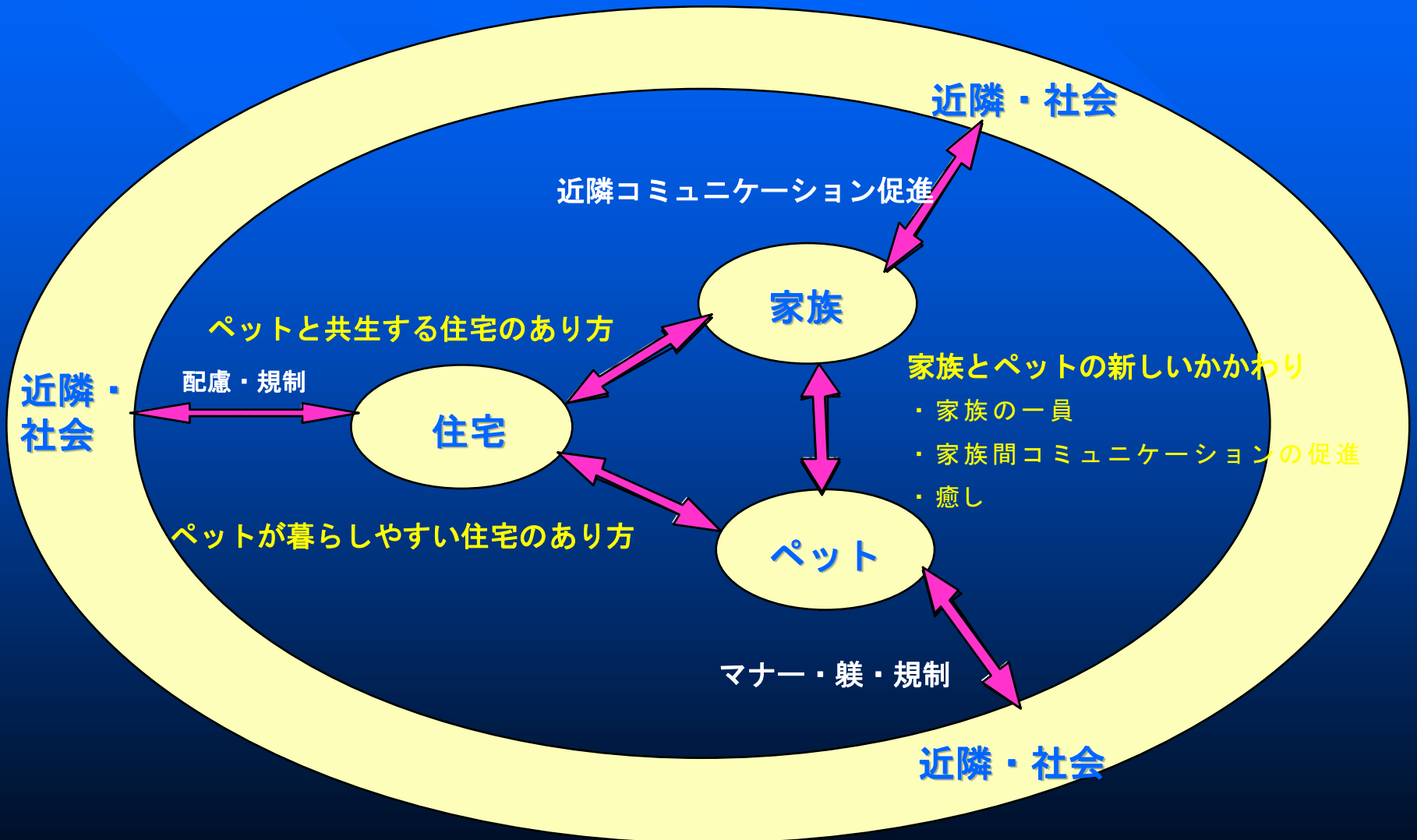


近所でのペット飼育

近所でペットを飼うことについて～飼って欲しくない割合



ペットとの共生を考える視点



ペット共生住宅の要件

- ペットとその家族がふれあえる家であること
- ペットが暮らしやすい家であること
- ペットの世話をしやすい家であること
- 近隣や来訪者に配慮した家であること



プラン・仕様・設備の工夫